

平成28年6月29日（水）

午後 1時30分 開会

午後 2時10分 閉会

場所 : 全員協議会室

[報告案件]

1 平成27年度半田市各会計の決算見込みについて

滝本均総務部長：資料に基づき説明

質疑なし

2 半田赤レンガ建物経済波及効果について

笠井厚伸市民経済部長：資料に基づき説明

中村宗雄議員：2点お願いします。見込みと違っているという話ですが、これではないということでしょうか。元々34万人が来て28億円の経済効果があるから20数億円投入して赤レンガを整備したと思いますが、あの数字をこう出していたから乖離があるという話で28億円と16億円では何倍違うのか。7割方か6割方くらいだと思えるのですが、その点をどのようにお考えなのかお聞かせ願いたいと思います。そして2点目、直接効果と言われる要するに市内需要額が7億8千万円あると。こういう数字がでているわけですが、では具体的に市内の商店や営んでいる方から「最近赤レンガバブルで売上が倍になっている」という話はどこからも聞こえてきていません。この7億8千万円のお金が市内を循環するとかかなりの声が聞こえてくると思いますが、この数字の裏はとられているのでしょうか。簡単に少しヒアリングをすれば「うちは全く影響ないよ」という方がほとんどだと思いますが、その点はいかがでしょうか。2点よろしくお願ひいたします。

笠井厚伸市民経済部長：まず乖離の部分ですが、確かに乖離が大きかったということは私どもも認識をしておりますし、実際に試算を見た時に驚いたというのは正直なところであります。ただ当初JTBプロモーションが試算をした際にはこの来場者の方にアンケート調査をして具体的にいくらを使ったのかという数字を基に計算したわけではございません。これは山車まつりがあったときに山車まつりのお客様がいくらを使ったかということのアンケート調査の中で使った数字をそのまま計算に使ったということでありますので、できるだけ正しく経済効果を把握するために今回こういったアンケート調査を行いながらやったものですので、結果としてはこれを受け入れるということと考えております。

続きまして2点目ですが、経済波及効果について裏を取ったのかということですが、正直言いまして市内の事業所さんに直接「赤レンガ建物ができて潤っていますか。」という問いかけはさせていただいておりません。あくまでも今回、一般的に行われる経済波及効果の計算式を使って計算をした結果こうなったということでありますので、具体的に事業者の皆さんにお尋ねするようなことはまだいたしておりません。

中村宗雄議員：先ほど山車まつりの数字を使って出したという話は、元々僕ら一つも聞いていなかったんですね。どちらかという山車まつりは半田市の5年に一度あるかどうかの非日常の数字を用いて日常のものとは比べるなんて本来そんな出し方である訳ないと思うんですね。これって今回この数字が出てきてこの乖離をみて聞いたところ実は山車まつりの数字を使っていたということがわかったのか、元々山車まつりの数字を使っていたことを知っているのか、お聞きしたいのが1点と、もう一つは国がよく言っていますが指数は上向いているけども指標としては、でも全然実感がない。要するに大切なのは実感なんですよ。市民のその大切な実感を無視して数字がこうなりましたと言って、これからもお聞きしたり景況感を商業主に聞くのはそんなに難しいことではないと思います。そういうことをするお考えはないのでしょうか。

笠井厚伸市民経済部長：当初から山車まつりの時の数字を使って計算をしたのかということを確認しているかということですが、最初からその数字を使ったというのは聞いております。次に今後、景況感などを確認する考えはあるのかということですが、私どももできるだけ生の声を聞きたいと考えておりますし、実際に商工会議所等でお話しを伺う機会もあるわけですが、我々としてもできるだけ現実に商売をやってらっしゃる皆さまからの生の声は聞いていきたいと考えております。

中川健一議員：私も同じようなところでお尋ねしたいと思います。私もやはり7億8千4百万円というのは、こんなにも効果があるのかと思ひまして、このレポートを一生懸命読んでみたのですが、おかしいんじゃないかなと思うのは例えば民間企業ですとA工場という工場があって新たにB工場をつくる時は新たにB工場をつくることによって売上がどれだけ増えて利益がどれだけ増えるかというような計算をしたいと思います。B工場をつくることによってA工場の売上や利益までは算定しないわけですが、このレポートを見てみるとそもそも半田の場合は半田運河や新美南吉もあるし、ミツカン酢もあってある程度経済効果はあったと思います。そこに対して赤レンガ建物ができることによってどれだけ増になったかということが実際は知らなければいけない数字だと思いますが、そういう数字がこの7億8千4百万円なのか。半田運河やミツカンが今まで稼いでいた経済効果も含まれている数字なのか、それはどちらなのでしょう。

笠井厚伸市民経済部長：それについては、実際この中の数字にはあくまでも赤レンガ建物に来たお客様がいくら使ったのかという数字をベースに試算をしておりますので、そのお客様が他にミツカンミュージアムに行った後に寄っているかもしれない。他の観光施設に行き寄っているかもしれない。ということでありますので、これはすべてが赤レンガ建物で落としたお金ではないと思っております。

中川健一議員：するとアンケート調査のやり方が悪いのではないかなと。あと一項目、「新美南吉記念館には行きましたか」「酢の里には行きましたか」ということを入れておけば、私の思うところ7、8割の人はプラスαで来ているのではないかと思います。するとこの数字がかなり怪しい数字ではないかと思います。この7億8千万円が赤レンガ建物できたことだけによる経済効果と考えるには少しおかしいと思っております。

笠井厚伸市民経済部長：赤レンガ建物できたことによると言いますか、赤レンガ

建物にきたお客様による経済効果と言いかえたほうが理解されやすいかなと思います。今、ご指摘いただいたそのアンケート調査でもう少し細かく調査すべきではないかというご意見もございましたが、これについては今年度もアンケート調査を実施する予定がありますので、そういったことはご意見を参考にさせていただきながら、しっかりと調査していきたいと考えております。

中川健一議員：先ほど裏をとるといふ、現場の商店の意見も聞きなさいという中川議員の意見もありましたが。例えばこれは商工会議所に行けばサービス業の売上推移は多分分かると思います。すると赤レンガビフォーと赤レンガアフターで数字がトンと上がっていけば2億円とか3億円、それはおそらく赤レンガができたことによる効果の可能性も高いと思いますし、上がってなければそれはそんなにないということが言えるのではないかと思いますけれども、やはりそういう調査も実数としてきちんとすべきではないかと思いますが。

笠井厚伸市民経済部長：確かにご指摘のとおりいろんな方法で経済効果の推計ができると思っております。今回お示ししましたのは一般的に行われる経済効果の推計の方法ですのでいろんなやり方をしてみながら実際どうだったのかということとはしっかりと検証させていただきたいと思っております。

中川健一議員：最後に少し数字を教えてくださいと思います。館内の売上が年間いくぐらいあったのかということと、館内の飲食の売上がだいたいどれくらいあったのかということと、いろいろ敷地内でイベントをやった収入があったと思いますがその売上がどれくらいだったのか。その内訳を教えてください。

笠井厚伸市民経済部長：昨年度の赤レンガ建物内の売上の額であります。まず貸館をしております貸館の収入が163万8千円。入場料金951万9千円。カフェの収入が2,751万8千円。ショップの売上が2,948万1千円。合計しますと約6,820万円でございます。その他、自主事業による売上が722万4千円ございました。なお、イベント等でいろんなお店が参加をいただいておりますが、そちらの売上金額については把握をいたしておりません。以上がお尋ねいただいた売上でございます。

藤本哲史副市長：お二人からいただいたご質問の関連になりますが参考のために申し上げますと、この赤レンガがオープンしたことによって実際の事業者の方の垂感覚はどうなのかとお尋ねがございましたが、これはヒアリングをしたわけではありませんが、ある会合でそんなことを申し上げたら「やはりその波及効果は私のお店にも来ておましてお客さんは増えております。あるいは飲食店だけではなく小売店も目にみえてお客さんが増えております。」とただこれは赤レンガであるのか、あるいは半田運河であるのか、それ以外の要因なのかということこれは半田市の今までの観光施策から言えば回遊性を求めてきましたので不可分である。一つだけの要因ではないとは思いますが、私が耳にしたあるいは直接お聞きした事業者の皆さまの中にはそういう実感をおっしゃる方がお見えになることも事実だということもお伝えさせていただきます。

それからもう一つは、こういった施設を整えて経済効果を上げていこうとすればそのチャンスをいかに受け止めていくかという事業者の皆さまの努力もこれからにかかっているんだなと思っておりますので、会議所ともよく相談をしながらもう少し実態は確認をしていまいりたいと思っております。

加藤美幸議員：確認させていただきたいのですが、赤レンガの運営にはJTBに対して何千万円かの委託料をお支払いしていますが、今回の波及効果の報告書がありますが赤レンガの運営に対して検討委員会や審議会はありますか。

笠井厚伸市民経済部長：これについては定期的に協議会を設けて意見交換をしております。

加藤美幸議員：協議会のメンバーはどういう方たちでしょうか。

笠井厚伸市民経済部長：正しくは、半田赤レンガ建物運営協議会という名称でございます。なお、メンバーは私の他には地元の区長さん、JTBさん、名鉄観光さん等の旅行会社、赤煉瓦倶楽部さん、観光協会さん、知多半島総合研究所等々でございます。

加藤美幸議員：大事な市の予算も使っておりますのでその協議会の報告も見れるようにしていただけると有難いかと思います。よろしく願いいたします。

3 中部知多衛生組合におけるし尿処理施設整備方針について

笠井厚伸市民経済部長：資料に基づき説明

中川健一議員：4の事業方式の比較・検討のところの「DB+O方式で実施することが適切である」ということですが、これは競争原理が働くためということですが、そういうデータなりこれが一番競争が働くという根拠はありますか。

笠井厚伸市民経済部長：これは他市町の例などを勘案した中で、一般的にはDBO方式が多いのですが施設の処理そのものがそれほど高度な技術を要しないということもあまして、施設建設と整備と運営の事業者は分けたほうがより競争の原理が働くだろうという判断でございます。

4 平成28年度長寿訪問事業について

藤田千晴福祉部長：資料に基づき説明

質疑なし

5 ホストタウン登録申請について

折戸富和健康子ども部長：資料に基づき説明

中村宗雄議員：半田市は姉妹提携している国が他にも2つほどあると思いますが、なぜこの中国が選ばれたのか。ここに書いてある選定理由はそれはそれで友好都市提携しているわけだと思えますが、他のミッドランドやポートマッコーリーはもっと違った子どもたちの留学生の交換など市民レベルの交流をされているところではなくて、なぜここを選んだのか端的に教えてください。どちらかというところと中国を嫌いな人が多いかどうかわかりませんが、微妙なこの国際関係の中で前回山車まつりのときもそういう事情で来られなかったこの国をなぜ選ぶのかその理由を教えてください。

折戸富和健康子ども部長：オリンピックということもあまして、徐州市とは体育協会の関係でスポーツで長年交流を続けておりましたので、スポーツ課としてはこの今までの交流を切り口としてホストタウン構想に名乗りを上げるということで中国を選定した次第です。

藤本哲史副市長：今説明したとおりでございますが、これは半田市側からオリンピ

ックの事務局に半田市としては中国をお願いしていきたいと申請をしたということでこれで決定では全くございません。むしろ先ほど申し上げたように事務局側からは当の相手国である中国とは事前の調整やあるいは内諾を受けていますかというような条件、あるいはアドバイスをいただいていますのでそこが上手くいっていないときっと中国は半田市無理ですねというような結論になるかもわかりません。ただそうならないように徐州市を通じて中国の関係部局と何らかの情報交換をしていきたいと思っております。

加藤美幸議員：この一国に対して一市町、ホストタウンは一市町ということですか。

折戸富和健康子ども部長：一国に対して市町はいくつあっても大丈夫です。